

病院だより

Vol.4 2009 冬号
2009年12月1日発行

ココロとカラダのメディカル通信

〒336-0931 さいたま市緑区原山3-15-31 TEL:048-882-2867 FAX:048-882-2887 URL:http://members.jcom.home.ne.jp/home-Kyousai/ 発行人:星野 徹

共済病院の 理念について

博仁会共済病院 副院長 本松 茂

共済病院は50年の歴史を持つ病院ですが、残念ながらまだまだ地域の方々に信頼される病院になっているとは言えません。どのようにしたら、地域の方々から信頼され、愛される病院になれるのか。われわれ共済病院のスタッフはこれからも常に考え続けて行こうと思います。

下記に掲げたのは当院の理念です。職員全員で色々な思いや考えを出し合って決めました。今回は少し硬い話になりますが、わが共済病院の理念と基本方針、今後進むべき方向性について述べたいと思います。

病院のことを英語でホスピタルと言いますが、その語源は巡礼者が旅の途中で疲れたり、病気に倒れたとき、一夜の宿と食事を提供した中世ヨーロッパの教会（ホスピス）だそうです。元々は教会で看護にあたる聖職者の無私の献身と歓待をホスピタリティと呼び、そこから今日の病院を指すホスピタルの語が派生したようです。私は以前、新潟県にある町立病院に勤務していました。数

年前中越地震が町を襲ったその夜、町中が停電となり不安な一夜を過ごすため、非常電源を灯した病院に多くの町民が文字通り駆け込んで来たのです。病院とは単に病気を見つけ、治療するだけが使命ではない。人々が生活する上での安心の拠り所、これが病院の本来の形なのだと思います。

本来、人間は「豊かな人生を送る」ことを目標に生活しています。しかし、もし何か困ったことがあったとき、すぐに駆け込めるところがあると、さらに安心が加わり、生活の幅は広がります。共済病院が大事にしたいことは、地域の方々が安心して、豊かな人生を送れるように健康面で支えるということです。そのためには、特別な病気だけを扱う特殊な病院より、多くの人々が抱えるさまざまな病気に迅速に、丁寧に対応できる病院であり続けたいと考え、日々研鑽に努めています。

重い病気がみつかることもあります。当院での治療が困難な場合はわれわれの出身である自治医大、あるいはさいたま市立病院などの基幹病院に紹介するなど、最適な治療を受けていただくようにしています。

当然、治る病気もあれば、治らない病気もあります。また、寿命ということもあるでしょう。人生の最期をどのように過ごすかということは大事なことで、目を背けてはなりません。ご本人、ご家族と一緒に悩み、答えを出してゆく努力をして行くつもりです。在宅療養を望まれば、地元の開業医の先生方や訪問看護スタッフと連携し、自宅で穏やかに過ごされるお手伝いをします。

先日、病院の周囲の方にアンケート調査をさせていただきました。

アットホームな雰囲気がいよという言葉もいただきましたし、もっと地域のために頑張るよう、期待を込めた叱咤激励もいただきました。それらの意見を大事に取り込みながら、元気づくりから病気の予防、手術を含めた病気治療、社会復帰を視野に入れた早期からのリハビリ、そして介護までを、トータルに行える総合的な医療を今後も担い、地域の方々の生活を支える病院を目指します。

治療や療養で分からないことがありましたら、当院には医療相談室を設けておりますので、どうぞお気軽に御相談下さい。

共済病院の理念

安全で思いやりのある医療を提供し、地域に住む方々を支える

共済病院の基本方針

1. 地域の方々のさまざまな健康問題に対応し、地域の皆様が生涯にわたって安心して暮らせるよう応援します
2. 地域社会の声を聴き、地域の方々から信頼される病院を創ります
3. 患者さん一人ひとりと向き合い、その方に適した医療を行います
4. 医療従事者の良心に従い最善を尽くします
5. 地域の医療機関・介護施設や行政と連携し、より良い医療を提供します
6. より良い医療を提供できるよう、スタッフ全員が自己研鑽に努めます
7. 誰からも愛され親しまれるよう、笑顔とわかりやすい言葉で接します
8. 言葉を尽くして説明し、知る権利や自己決定権を尊重します
9. プライバシーを大切にし、個人情報を守ります

医学の常識とマスコミの非常識

メタボリックと本当の話

第9回共済病院健康講座は、『医学の常識とマスコミの非常識』と題して、日本大学医学部の押田茂實法医学教授にご講演を戴きました。

刺激的なテーマだったので、どのような内容展開になるのか検討もつかないまま講演がスタートしましたが、話は教授の専門の『法医学』の紹介から入られて、表面に現れない真実を追究する学問であると言う法医学的な見方で、マスコミ報道等を通じて世間

一般の定説となっている「メタボリックシンドローム」の定義に疑問を投げかけ、確かな情報に基づきそれぞれが自分に合った対応策を採るように導こうとするもので、講演の進行に合わせた画像・レジュメも用意され大変わかりやすく興味深いものでした。

要約すれば、メタボリックシンドロームの必須診断基準としての内臓脂肪蓄積量(腹囲)について、国内で報道されている数値は男性：85cm以上、女性：90cm以上となっているが、男女の身長差等から考えてもそれには無理があり、国際基準では男性：90cm、女性：80cmが採用されていること、空腹時血糖値についても差があること等が紹介され、要は腹囲が85cmを越えたからと言ってあわてて減量に努める必要はなく、多少のオーバーはあっても体調が良いと思う状態を保つことが大事であり、教授が調査された結果では「やや太」くらいがちょうど良いとのことであった。日頃、腹のたるみ具合を気にしている男性諸氏にとっては、多少安堵する話であった。

講演の後半は、教授の専門分野であるDNA鑑定技術の進歩の歴史とDNA鑑定を用いてご自身が関わった事件の裏話にも言及されましたが、話の中で教授が得意と言うマジックでおもちゃのピストルを取り出して撃って見せるパフォーマンスも取り入れたりして、興味の尽きるまもなく予定の1時間半が終了してしまいました。



ふるってご参加下さい。

次回第10回健康教室のお知らせ

平成22年2月6日(土)
14時30分～

「中高年の心の健康」

講師 済生会鴻巣病院 顧問 渡嘉敷 暁氏

詳しい内容は、後日お知らせします。

●内科外来診療担当医●

(受付時間)

		月	火	水	木	金	土
午前 8:50 ～ 11:30	内科	関根	仲 (皮膚科)	村山 (皮膚科)	荒尾	加園 (糖尿病)	仲 (皮膚科)
	内科 予約再来	田代		本松	田代		本松
	専門外来		藤井 (消化器)		荒尾 (循環器)	鷺原 (消化器)	生井 (糖尿病)
午後 1:00 ～ 5:00	内科	関根	藤井	田代	村山 (皮膚科)	仲 (皮膚科)	※検査 胃内視鏡 月・火・金午後
	専門外来		藤井 (消化器)	田代 (消化器)	荒尾 (循環器)		
	専門外来			金井 (呼吸器)			大腸内視鏡 金曜日午後

生井先生(糖尿病)の専門外来は予約制となっております。

●外科・婦人科・整形外科外来診療担当医●

(受付時間)

		月	火	水	木	金	土
午前 8:50 ～ 11:30	外科休診			星野			星野
	鈴木・廣瀬 (婦人科)		清崎	林 (婦人科)	神崎	星野	達原 (第2、第4)
午後 1:00 ～ 5:00	星野		河合 (整形外科)	谷口		柿澤	
			外科休診 (手術のため)	金井 (呼吸器科)	外科休診 (手術のため)	本松 (婦人科)	脳外科 隔週

こう門科:星野 神崎
乳腺・甲状腺外来(第2、第4土曜日):達原